

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 25

学校名・団体名	浜松市立蜷塚中学校
HPアドレス	<a href="http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/shijimizuka-j/">http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/shijimizuka-j/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「命を大切にする教育の推進」 ～被災地熊本と共に～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>学校教育目標「豊かな心を持ち、ねばり強く実践する生徒の育成」である。生徒の多くは、学習に意欲的であるが、授業や行事等の中で粘り強く追究することが苦手であったり、人の気持ちを理解し互いに良さを認め合うことができなかつたりする課題が挙げられる。課題を克服する取組として、「命を大切にする教育」を設定した。具体的には、被災地熊本について現状や課題を自分なりにとらえ、自分や他者の命を見つめ直したり、日常の環境や当たり前前に感謝したり、互いの良さを認め合い高め合ったりする機会を作ることを進める。また、命を守る取組みとして、防災教育の推進も図っていく。この取組は、学校教育目標を達成させる事とも重なると考え、本主題を設定した。</p>	

## <活動内容>

熊本市では、平成28年4月14日、16日に震度7となる地震があった。二度の大地震に見舞われ、熊本城をはじめ多くの学校、家で甚大なる被害であった。ここ、浜松においても地震は、人ごとではなく、東海地震、南海トラフ地震がいつ起きてもおかしくない状況がある。本校においても、防災意識を高め、防災への準備と共に、命を大切にする教育を推進する必要があると考えた。

本校では、平成28年に生徒会を中心に熊本を支援できることはないかと考え、「募金活動」を震災直後の4月後半から5月にかけて行った。募金の使い道については検討を何度も重ねた。話し合いでは、震災募金を行っている企業に持って行ったり、日本赤十字募金に送ったりなど様々な案があがった。中でも「せっかくの募金を同じ中学生や学校のために活用できないだろうか」、「見える所で活用してほしい」という意見が多く出た。そこで、生徒会を中心に話し合い、熊本の中学校との交流を考えることとなった。そこで、熊本市教育委員会に連絡を取り、熊本市立東部中学校を紹介いただいた。熊本市立東部中学校は市の中でも被害が大きく、特に体育館は外壁が落下して床に刺さって、避難所としても開設できない状況であった。

募金の使い道は、熊本市立東部中学校とも話し合い、熊本の生徒たちが元気になるよう、学校の掲示板を設置する資材の一部費用にあてて頂くこととなった。掲示板は生徒が見やすいように、学校の正門を入れてすぐの所に設置された。

平成29年度、本校において熊本震災に関する図書を購入して、図書室に震災コーナーを作った。生徒にとって震災が他人事ではなく自分事として捉え、手に取って目で見られる機会を作った。生徒たちは、震災直後の写真を見る中で、大変な出来事であることを認識していた。また、今ある日常の環境が恵まれていることを再認識している様子が見られた。

さらに、平成29年4月と10月にビデオレターを作成して、熊本東部中学校に送った。熊本の中学生が少しでも元気になってほしいと考え、生徒会執行部を中心に動画を撮影した。本校の特徴を知ってもらおうと、本校ゆるキャラである「しじみん」も登場し、学校紹介や部活動紹介、校歌紹介、合唱練習風景などのビデオレターを作成した。

加えて、11月には「命を大切にする講演会」を実施して、九州出身のシンガーを学校に招き、「生まれてきてくれてありがとう」というテーマのもと、生徒、保護者一緒になってひとつのかけがえのない命の大切さについて、親との関わりや未来への可能性について講話をしていただいた。生徒からは、親への感謝の気持ちや命を大切に生きていきたいという感想が多く見られた。

そして、生徒会を中心に美術部の力を借りて、熊本の学校に元気や勇気を届けたいと、横断幕を作成した。生徒の手によるデザインで完成し、熊本市立田迎西小学校と熊本市立東部中学校に送った。また、本校においても、熊本の震災を忘れず、命を大切にする教育を推進していくことのシンボルとして横断幕を飾っている。



## <まとめと今後の課題>

本校の職員が直接熊本の小中学校の校長先生や指導主事から当時の学校での様子などの話を伺った。災害が起こった時に被害を最小限にするための備えが必要であると強く感じた。

避難所となった学校の対応では、「小学校では自治会によって、中学校では先生たちによって避難所を運営する場合が多かった。」と伺い、様々な対応に苦労した話があった。運営のインシニアチブの取り方の難しさや役割分担の大切さについて再認識することができた。また、避難訓練ひとつとっても、地震があった後に火災が発生した状況を判断しながら集まることを実践した。本校にも避難訓練の実施方法を改善していきたい。

震災後の保護者への生徒引渡についても、どのルートをどのように確認しながら行うのかについても事前に検討する必要を感じた。

熊本市においては「防災教育副読本」を作成している。その中には、地震が様々な活動場面で起きたときに「身を守るために、どんなことが必要か」を写真を見て判断させることを行っている。本校においても、本市作成の防災ノート（右資料）の活用と合わせて、避難訓練の際の前後の学級活動等の中で取り上げていくことができる。

また、震災時には、命を落としたり、大きな怪我をしたり、家族がバラバラになったりしている現状を伺い、命の大切さについて実感することができた。生徒たちには、当たり前前に家族や友達、社会があるわけではなく、日頃、恵まれている環境に感謝することも引き続き伝えていく必要があると再認識した。

今後、本校において、早速取り組める内容としては、

- ・連絡メールの登録を必ずしておいてもらうこと（連絡先を複数書いてもらう）。
- ・早さだけを競うのではなく、生徒に考えさせる避難訓練にすること。
- ・先生たちに事前に役割を割り振っておいて、仕事の内容を理解しておくこと。
- ・学校内や体育館をどのように避難所としてつかうのかレイアウトが分かっていること。この地区の人はここへ。ペットはこの部屋など。後から動いてもらおうとすると、なかなか動いてもらえない。などがあげられる。今後は計画的に防災教育を進め、今できることや事前にできることを学校で計画的に進めていく。学校評価にも取り上げ来年度の実践にすぐに生かしていきたい。熊本を訪問した職員から直接生徒へ熊本震災の状況や防災意識についての話をした。生徒は、被害の大きさに驚くと共に防災への関心が高まり、以前よりも避難訓練にも真剣に参加する姿が見られた。また、一人一人の命の大切さについて改めて意識する機会となった。家族の支えや友達の支え、地域の方の支えがあって、今の自分があることについても認識を深めていた。生徒の感想に「親は子供のことが大好きで、幸せになってほしいから怒ったり口出ししたりして導こうと、自分のために一生懸命になってくれていることを知った。だから、自分も一生懸命に生きて、いつか恩返しができる、強くて、優しく、輝いた大人になりたい」とあった。親に感謝すると共に未来に向かって力強く生きていこうとする姿が伺える。

今後、生徒間どうし、教職員どうしで情報交換をしながらお互いの学校、地域の良さや課題をつかみながら改善を進めていきたい。生徒の防災意識の改革と共に、学校教育目標である「豊かな心を持ち、ねばり強く実践する生徒」に育つように継続的に熊本の学校や生徒と交流を深めながら進めていく

